

## 2-6 交流・連携の推進

### ■現況と課題

#### 1. 国際交流の推進

これまで世界的な馬の町イギリス・フォーレストヒース市（ニューマーケット）やモンゴル・ズーモド市第5学校との交流が、浦河国際交流クラブ、浦河フォーレストヒース交流協会と野深小学校が主体となり行われてきました。

フォーレストヒース市へは、町民海外派遣事業により4回、児童生徒海外派遣事業で2回訪問し、同市からも市関係者と中高生が来町するなど交流してきましたが、実施団体の閉会や休会により交流は休止状態となっています。

モンゴルとの交流は平成8年に野深小・荻伏小の教員と児童生徒が訪問し、平成10年にはズーモド市第5学校の児童生徒ら10名を浦河に招へいしホームステイや学校訪問を行いました。

これらの交流が休止するなか、わが国と中国との経済的関係が強まるにともない、当町においても浦河日中友好協会が、札幌総領事館や日中友好協会、華人華僑連合会と連携し積極的に交流活動を展開しており、これに対して町も協力・支援を行ってきました。中国との交流が経済・観光などを振興し、地域の活性化につながることを期待されることから、今後とも同協会と連携を図りながら中国との交流を推進する必要があります。

また、その他の町内団体・機関が行う国際交流・国際協力活動へのフレキシブルな対応を行うとともに、国際理解・多文化共生の学習機会を設けることが必要です。英語は国際共通語であり小学5・6年生から必修科目となりましたが、学校以外でも子どもの頃から様々な機会を通して興味・関心を持たせることが必要です。

さらに、町内には軽種馬関係者を中心に100人ほどの外国人が暮らしており、これら在町外国人との交流機会を設け、身近なところで国際理解・国際交流を深めることや外国人の生活相談に対応することも求められます。

#### 2. 地域間交流の推進

明治4年の浦河への入植を縁に、平成元年から熊本県河浦町（現、天草市）と児童生徒の相互派遣を中心にしたふるさと交流事業を行ってきました。しかし、同町が平成18年4月に近隣自治体と合併したことから、行政間の交流にピリオドを打ち、縁の地域である杵臼地区と東部小学校を主体とした交流に移行されてきました。

また、馬に関わりのある全国の市町村による全国ホースサミット連絡協議会は、平成2年浦河で設立し活動を行ってきましたが、加盟自治体の減少や一定の役割を終えたことから、平成24年度に閉会することになります。

札幌浦河会や東京浦河会などの「ふるさと会」は、会員の親睦だけでなく町のPRやふるさとと納税の協力など浦河の応援団として貢献されて、より一層連携を深めることが必要です。

平成21年度から様似町との共同によりスタートした「日高王国」は、高校生などの修学旅行生を農家・漁家に受入れる事業であり、平成23年度には兵庫県の高校生を約150人受け入れ、浦河の生活を体験してもらいました。より多くの若者が浦河の魅力を体感できるよう、受け入れ先の拡大を図るとともに、誘致するためのPR活動を推進する必要があります。

### 3. 移住・定住の促進

平成17年度から首都圏を中心に団塊の世代をターゲットに移住・交流ニーズに対応することにより人口減少に歯止めをかけようと、移住促進対策事業に取り組んでいます。平成18年度に住宅を整備し体験移住の受入れを開始し、平成22年度には体験移住の延べ滞在日数全道一となるなど高い人気を誇っています。

この間、民間と連携を図り、東京・大阪など大都市圏でのPR活動や新築体験住宅の整備を行うとともに移住・交流ビジネスへの模索を行ってきました。

今後とも、移住・定住・交流の情報を提供するとともに、移住・交流ビジネスが具体化できるよう、関係者と研究・協議を進めることが必要です。

近年、未婚者が増え、その割合は国勢調査のデータからも上昇傾向がわかります。新たな少子化対策・定住化対策として、未婚者が結婚し家庭を持ち、子どもを産み育て、浦河に定住することで活力が生まれるよう、地域の中で結婚を促す雰囲気づくりをすることが求められています。

## ■今後の方向性

### 1. 国際交流の推進

- (1)浦河日中友好協会など関係団体・機関と連携し中国など外国との交流を推進します。
- (2)国際理解や多文化共生のための学習機会の充実に努めます。
- (3)小学生段階から国際共通語である英会話学習の推進を図ります。
- (4)町内団体・機関の行う国際交流活動を支援します。
- (5)町内在住の外国人との交流機会を増やし、身近な国際交流を推進するとともに、相談への対応を図ります。

### 2. 地域間交流の推進

- (1)受入れ体制やPRの強化など、「日高王国」事業の充実に図ります。
- (2)「交流から体験、体験から移住」を図るため、日高王国事業と移住促進対策事業を一元化した推進体制により取り組み、将来的なNPOなどによる運営の移行についても検討します。
- (3)「札幌浦河会」や「東京浦河会」など「ふるさと会」に対し、UIターン・移住などを含めた来町への働きかけや「ふるさと浦河応援寄附金」への協力依頼、さらには東京浦河会が参加する北海道フェアへの支援など、より連携を密にします。
- (4)地域が行う旧河浦町(天草市)との交流への支援を行います。

### 3. 移住・定住の促進

- (1)「浦河海と牧場の郷有限責任事業組合」などと連携し、住宅の整備や受入の対応など体験移住事業に充実に図ります。
- (2)体験移住者のリピーターへの効果的な対応を検討します。
- (3)移住・定住に必要な住居を確保するため、民間の空家・空地などの情報収集と提供を推進します。
- (4)関係者と研究・協議し、移住・交流ビジネスの具体化を図ります。

(5)少子化・定住対策として、未婚の男女の出会いの場を設け結婚につなげてもらうため、関係団体と連携した婚活事業を行います。

### ■実施事業

- ・国際理解フォーラムの開催
- ・在町外国人との交流機会の提供
- ・うらかわ出会い交流支援事業
- ・日高王国事業
- ・旧河浦町との交流支援
- ・町外からの研修、視察等の積極的な受け入れ
- ・東京・札幌浦河会、札幌荻伏会との連携強化
- ・浦河を愛する町内外の組織化の検討
- ・移住・定住促進による地域の維持と活性化
- ・体験移住による交流人口の拡大
- ・移住・交流促進事業のビジネス化推進
- ・国際交流協力団体への支援
- ・子ども英会話教室の開設